

気候変動教育能力開発プログラムガイドブック2 付録

GUIDEBOOK OF CLIMATE CHANGE EDUCATION-PART2- CAPACITY BUILDING PROGRAM APPENDIX



製作：高橋敬子（立教大学社会学部）

プログラム開発協力・アドバイザー：トーマス・ホフマン（ドイツ・カールスルーエ教員養成校）

協力：立教大学 ESD 研究所

*このガイドブックは、JSPS 科研費 17K01064 の助成を受けて実施した成果をまとめたものです。

未来を考えるためのワークショップ セルフチェックシート

お名前 ()

当てはまる番号に丸をつけてください。

1) 年齢 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代

2) 気候変動に関する学習歴 (業務等で携わった期間)

1. 1年未満 2. 1年～3年 3. 4年～9年 4. 10年以上 5. 20年以上

	あてはまる	大体当てはまる	一部当てはまる	当てはまらない
--	-------	---------	---------	---------

1. システム思考コンピテンシー

a) 私は気候変動の原因となる要因間の関係を認識できている				
b) 私は気候変動の原因となる要因間の関係を理解できている				
c) 私は気候に関連するシステムが不確実性を持っていることを理解している				
d) 私は気候に関連するシステムが様々な分野にどのように組み込まれているか理解している				
e) 私は気候に関連するシステムが様々な規模 (地域から地球規模まで) にどのように組み込まれているか理解している				

2. 協働コンピテンシー

a) 私は他者の視点から学ぶことができる				
b) 私は他者の視点を理解することができる				
c) 私は他者のニーズを理解することができる				
d) 私は他者のニーズを尊重することができる				
e) 私は他者に対して配慮することができる				
f) 私はグループ内での意見の不一致や論争等に対処することができる				
g) 私は参加型の方法で協力して問題解決に貢献できる				
h) 私は他者と一緒に共通のもの (作品・成果) を作るすることができる				

3. 批判的思考コンピテンシー

a) 私は気候変動の問題の規範 (道徳や倫理等) に疑問を示すことができる。				
b) 私は気候変動の問題を解決するための実践に疑問を示すことができる				
c) 私は気候変動の問題解決のための選択肢について疑問を表すことができる				
d) 私は持続可能性について意見を述べるることができる				

	あてはまる	大体当てはまる	一部当てはまる	当てはまらない
--	-------	---------	---------	---------

4. 予測コンピテンシー

a) 私は未来に対する自分自身の望ましいビジョンを描くことができる				
b) 私は多様な未来を評価することができる				

5. 戦略的コンピテンシー

a) 私は地域レベルにおいて持続可能性を促進する革新的な行動を協力して発展させる（開発する）ことができる				
--	--	--	--	--

6. 自己認識コンピテンシー

a) 私は地域のコミュニティにおいての自分の役割を考えることができる				
b) 私は地球規模の社会において自分の役割を考えることができる				
c) 私は気候変動に対する自分自身の行動を絶えず評価することができる				
d) 気候変動に対する自分自身の行動にやる気を起こすことができる				

7. 規範的コンピテンシー

a) 私は個人や集団全体のエネルギー利用（特に輸送、モビリティ、暖房、栄養等）に関する様々な分野の低炭素な生活様式に関して、自分の行動に潜む規範や価値を振り返る				
b) 私は低炭素な生活様式を目指すための自分自身や集団のゴールやターゲットについて考える				
c) 私は低炭素な生活様式を目指すためには、トレードオフの問題が生じることもあることを理解する				
d) 私は低炭素な生活様式を目指すためには、理想と現実との不一致があることを理解し、折り合いをつける				

8. 統合的問題解決コンピテンシー

a) 私は地域レベルにおいて、持続可能性の観点を取り入れた実行可能かつ公平な気候変動問題に関する解決策を提示・実践することができる。				
--	--	--	--	--

未来を考えるためのワークショップ -基本的アイデア-

- 基本的なアイデアと手法は、1960年代にアメリカの経営者たちが産業製品を改良する目的で考案
- 作家のロベルト・ユンクが、この手法を社会問題に適応させて開発した学習手法がZukunftswerkstatt
→未来を考えるためのワークショップと呼ぶ
- 1980年代以降、ドイツの学校教育現場でも使用されている

出典：ホフマン・トーマス氏作成資料を高橋翻訳

未来を考えるためのワークショップの特徴

- 行動指向
- 協働
- 必ずしも具体的である必要はない
- 必ずしもデータに基づく必要はない
- 何にも縛られず制限なく考えることができる
- ファンタジー（想像力をつかう）
- ビジョンを開発する

出典：ホフマン・トーマス氏作成資料を高橋翻訳

未来を考えるためのワークショップとは？

- **第1段階（批評）**
テーマについて客観的に批評し合う
- **第2段階（ファンタジー）**
学習者が**日頃の思考の枠を超えて考える**作業を通して、テーマを解決させるための革新的なアイデアやビジョンを出し合う
- **第3段階（現実化）**
第2段階で出た様々なアイデアを、専門家等の助言やグループ内でのロールプレイ、投票等の方法を用いて、現実的に実施可能な案を残す

出典：ホフマン・トーマス氏作成資料を高橋翻訳

段階 1：批評

- 何が間違っているか、問題なのか？
- 選択したトピックの現実性を分析する
- 見つけた問題に名前（題名・トピック名）をつける。
例、地域の気候の未来における排出とエネルギー供給
- 結果と問題分析と課題を文章にまとめる。
- 実態を一般的に診断する。
- 誰の目にも分かりやすくまとめる。

出典：ホフマン・トーマス氏作成資料を高橋翻訳

段階 2：ファンタジー/ユートピア

- 解決法、ビジョン、アイデアを創造する
- 全ての学習者は専門家である！
- 全ての専門家（学習者）は知識と特にファンタジーを提供する
- 考えに制限はない！
- この段階で互いの意見を批評・評価しない！
- 共通の問題解決法をうみだす

出典：ホフマン・トーマス氏作成資料を高橋翻訳

段階 3：現実化

- ファンタジーが現実と出会うことで、ビジョンが失敗に終わってしまうものもあるだろう
- しかし、アイデアの幅や可能な方法は広がるかもしれない
- 問題、課題、戦略、ビジョンが新たに考えられるだろう
- 全ての学習者が、認知的及び知的な利益を経験することになる
- 学習者は個々の能力やコンピテンスを強める
ー行動する、判断する、議論する、交流する、創造的に考える、予想して考える
- 未来は個人のファンタジーや創造性によって作られるという認識を学習者がもつ

出典：ホフマン・トーマス氏作成資料を高橋翻訳